

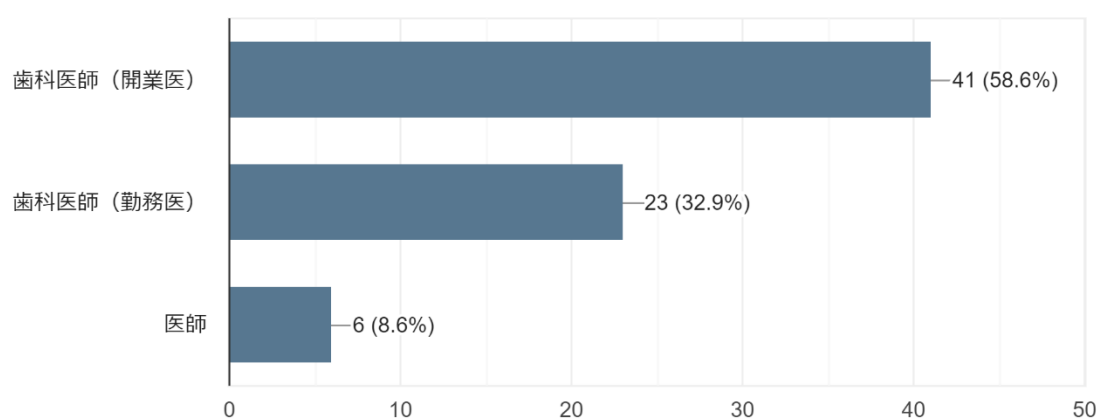
第2回 歯科医のための Headache Academy ～三叉神経・自律神経性頭痛（TACs）の診かた～ アンケート集計結果

2021年12月5日（日）13:00～15:45（ハイブリッド開催）

参加者数 計 120名（会場 7名 オンライン 103名 登壇者 10名）

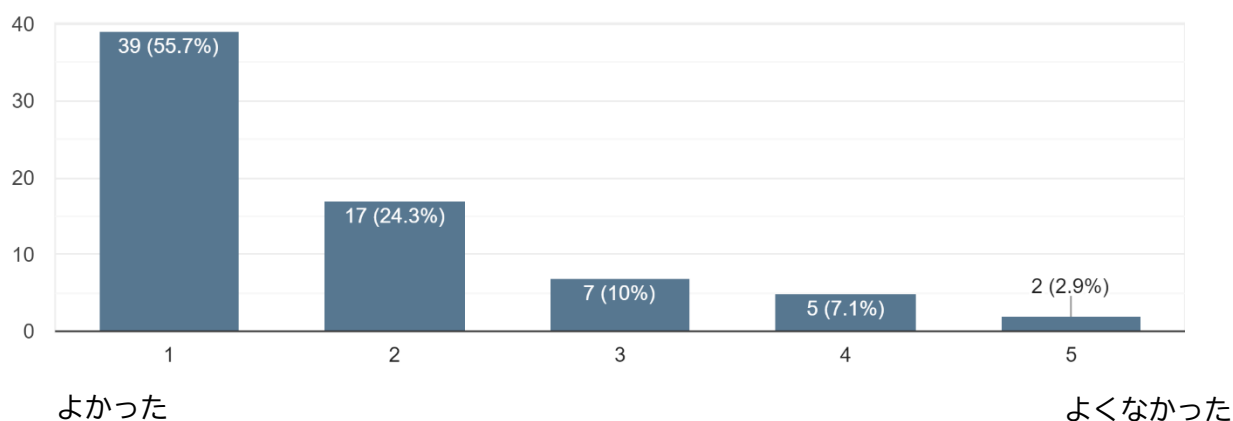
1. あなたの職種について教えてください。（複数回答可）

70件の回答



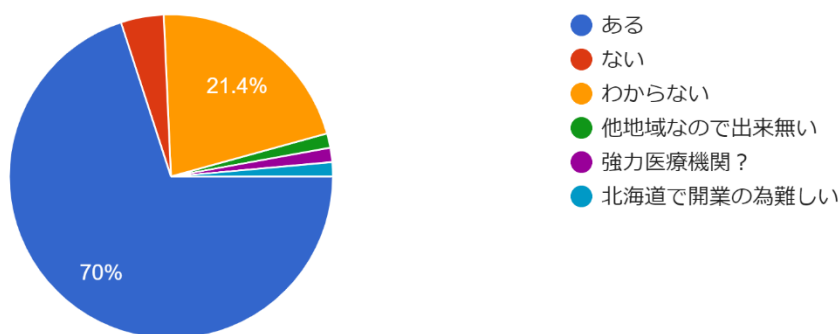
2. 今回のセミナーの感想をお聞かせください。

70件の回答



3. 今後、歯科口腔外科領域における慢性痛診療に...機関（25施設）との連携にご興味はありますか？

70 件の回答



4. 歯科口腔外科領域における慢性痛と集学的診療に関するご意見をお願いいたします。

- ・可能な施設を増やしていただくようお願いいたします。
- ・見逃さないようにして、連携します
- ・なかなか集学的治療はできないという実感
- ・精神科との連携が大切と考えていますが、口腔顔面痛を理解している精神科医を探すのが難しいと思っています。
- ・大変勉強になりありがとうございました。
- ・科によっては TACs の用語が通じなかったこともあり、病態の理解を共有できたらいいと思います。
- ・医師ですので、対応していただける歯科口腔外科領域の医療機関リストができると助かります。
- ・頭痛の整理が出来て有意義であった。
- ・歯科医師が保険で処方することに制限がかかっている薬剤が多い
- ・紹介先の高次医療機関としてどこが適切なのか悩んでいます。
- ・患者さんがご理解できるよう開業医からも情報を発信してまいります。
- ・集学的治療について、もう少し具体的にできればよいと思いました。
- ・昨今で病名が変更されたり新しくなったりと分からなくなってしまうことが多いです。整理できるものがあれば助かります
- ・開業歯科の先生方にも知っていただきたいと思います。
- ・一般開業医が連携できるようなネットワーク（地域の頭痛専門医との連携等）構築を期待

しています。

- ・とても重要な分野だと思います。なるべくたくさんの開業歯科医師の先生に広めていって頂きたいです。井川先生お世話になっております。ありがとうございました。
- ・適切な診断を行うことが重要であることを改めて認識できた。
- ・集学的診療は非常に大事であると思います。歯科側の医科に対する知識、医科側の歯科に対する知識の両方が必要になり、難しいですが、ぜひ発展してほしいと思います。
- ・歯科疾患との鑑別がむちゃかしい ブラキシズムによる歯牙の外傷咬筋や側頭筋の筋肉痛なども明け方に出やすく、先週からの寒波や季節の変わり目なども怪しいです
- ・歯科医師全体的に慢性痛に対する理解の底上げが必要であるとともに、難治例に対しては集学的診療が受けるためのハードル（施設数・予約のとりやすさ、診療点数など）が下がることを望んでいます。
- ・一刻も早く、各地域に慢性痛に理解のある先生たちで構成された集学的診療のできる拠点をたててほしい
- ・TACs が原因の歯痛などを歯髄痛と早い段階で診断し抜髄したりしないようにするためにはこのような医科の先生を交えた研修会は重要とおもいます。
- ・これからも必要
- ・山形で歯科医院を開業しております。TACs や特発性口腔顔面痛を疑うケースが一定数あります。患者には誠心誠意説明し2次医療機関への紹介を提示しますが、多くの場合「歯が痛いから、抜髄もしくは抜歯してほしい」と言われ、診断がつかないため出来ないことを説明すると他歯科医院で処置をされることが多いです。最終的には多数歯の抜歯という転帰をむかえたケースと数例経験しています。つまるところ、広く患者教育をするのと、歯科医師など専門家への教育の必要性を痛感しております。歯科医師の中にも様々な方がいます。未だに裂溝の着色をcとしてインレー修復する人がいるのと同じで、cないけど患者が痛いって言うてるから抜いてあげようみたいな救済幻想を抱く方も多いです。歯科医師会でTACsって知ってる？と知り合いの歯科医師に聞いても税金？と言う答えが殆どであるのが現状です。知らないものは診断できない。
- ・歯学部学生教育で慢性痛に対する就学的診療も含めて授業を画一化して教えるべきと考えます。もちろん、現存の歯科医師教育、啓発は必須と考えます。
- ・歯科的知識のみでは診断に迷う。集学的診療施設は必要
- ・是非 必要です。
- ・口腔顔面痛診療に携わる開業医においては、集学的診療とそれにもなう他科医療機関連携は必須と考えるが、地域差によってその構築に難渋することもある。その構築の一助として、このセミナーを提供して下さる先生方、また聴講の先生方とのつながりを大切にしていきたい
- ・歯科口腔外科領域においても応用できるようになるとよいと思いますが、実際にはなかなか難しいでしょうか。

- ・今後の診断の参考になった。
- ・口腔顔面領域の慢性疼痛は他部位の慢性疼痛とは似て非なる臨床所見も多く、顔面領域の専門家である歯科医師が主体となる治療への介入を経た上で他職種との連携が必要となってくると考えます。
- ・特になし
- ・開業医として慢性痛を紹介できる病院の拡大と病院名の公開
- ・連携が重要な分野なので、このような企画は大変ありがたく思っております。
- ・鑑別等は非常に勉強になりましたので、症例提示をメインとした診査診断治療の流れを拝見できる機会が今後あるとより理解が深まると思います。
- ・今まで歯科では認識の低かったところなので積極的に取り組んで行きたいと思っております。
- ・今後、ニーズが増し、診療に占める割合が増えると思われる
- ・連携できる施設（診療所など）がwebでわかると助かります。
- ・慢性疼痛に対するACTの有用性
- ・口腔外科関連の慢性痛とTacsとの鑑別は難しい。
- ・純粋に歯痛を主訴に来院された場合の鑑別診断について詳しく知りたい。
- ・昨今のコロナ禍により不定愁訴や不確定疼痛を訴える方が増えるのを危惧しています。
- ・歯牙以外の原因不明の慢性痛については是非必要と考えています
- ・まだ勉強分野で勉強致します
- ・特になし
- ・歯科学をより高度な世界に発展させるために必要と考えられる。
- ・見逃さず連携したい
- ・それぞれの先生方の経験則によるところが大きく、アプローチが様々なので、他科で経験が浅いと手を出しにくい
- ・歯科医師も積極的にこの診療に参加すべきだ。
- ・一般歯科診療時、慢性痛の鑑別診断を詳細に
- ・医科歯科連携で取り組んでいく必要があると思う。
- ・原因不明の歯痛に対応してもらえる近隣の医療機関を、歯科医師会を通じて公表して欲しい。
- ・開業医の立場では連携にハードルが高い
- ・集学的診療は有意義と思っております。
- ・未知の部分が多いですね
- ・歯痛と神経痛の鑑別診断は確実になる様にしたい。
- ・具体的な治療法が知識として、歯科医師に広がってない。
- ・以前に井川先生の講演を聞いたことがあります。日常臨床にできるだけ落とし込めるように努力しています。
- ・頭頸部領域は特に患者さんの心理社会的側面が大きく左右することがあるので、集学的治

療は重要だとは思いますが、現実的にスムーズにいかない現状があると思います。

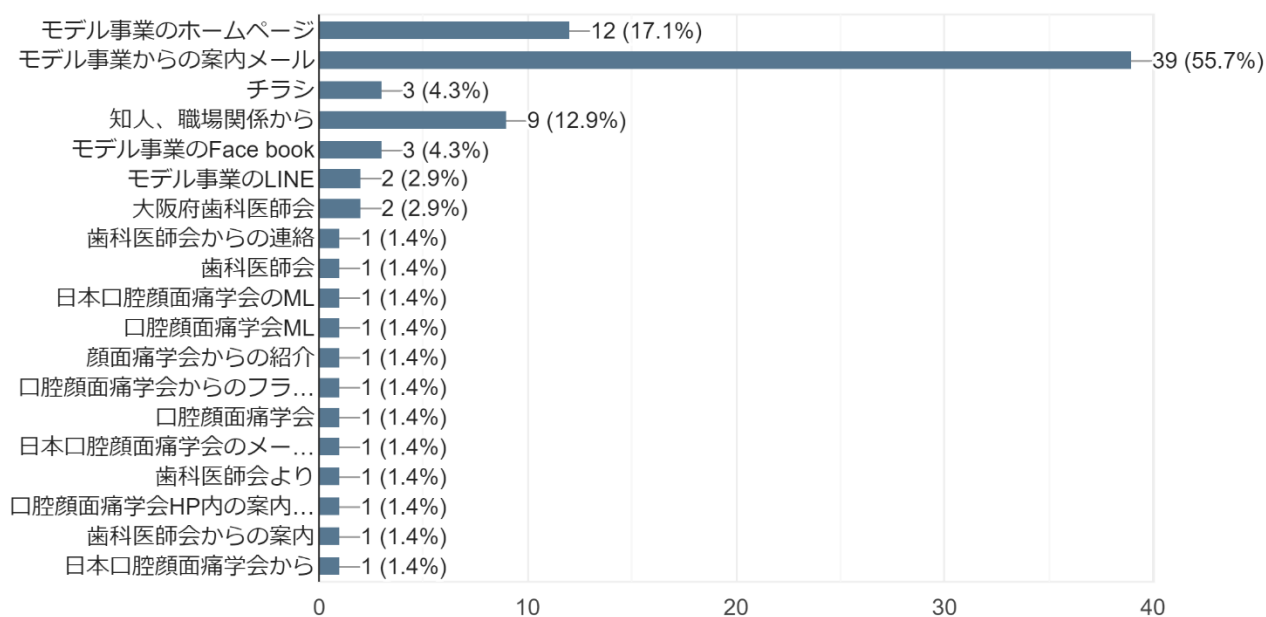
- ・よく患者様がおられ、神経ブロックを行っているので参考になりました。

歯科領域の慢性痛は再診料しか請求できない。集学的診療は必要であるが開業歯科医としては全く身動きできない。

- ・今後も継続してほしい
- ・歯科から医科へのスムーズな紹介ができれば患者さんにとってメリットが多い。
- ・他職種との連携が構築できるとありがたい
- ・もっと広めていくべき課題と考えます。
- ・診断できず抜歯になるケースを無くしたい
- ・口腔外科医の多くは、慢性痛に関心がないと思います。
- ・歯科では菌原性疼痛はよく治療されているが、慢性痛になりやすい非菌原性疼痛は知られていなかった。もっと啓発が必要
- ・歯科医師以前に医師がしっかりこの概念を認識する必要があると思う。
- ・検討中

5.このセミナーをどこでお知りになりましたか？（複数選択可）

70件の回答



備考欄（ご質問などございましたらご入力ください）

- ・いつも参考にさせていただいております。昨年に引き続き、ありがとうございました。来年もよろしく願い致します。
- ・有用な学修機会をいただきありがとうございました。
- ・現在、口腔顔面痛学会が minds にも掲載して非歯原性歯痛の分類を推奨していますが、ICOP 分類は歯科界でどの場合に用いるべきでしょうか？
- ・紹介出来る病院(富永病院等)に具体的にどんな形で紹介させていただいたら良いのか？教えて頂きたい。
- ・おっしゃっていた先生もいたが、年 1、2 回くらいの頻度で開催して欲しい。
- ・オンデマンドでの配信はありますか？所用で途中で退席しましたが、非常に有意義な内容でしたので聴き逃したところを拝聴したいのと、せっかくの WEB 配信なのでこの講演を一回で終わりにするにはあまりに勿体ないと思いました。ほかにも参加希望の先生がおられたり、この講演を聴いて他の先生に勧めることもあるかもしれませんので、是非オンデマンドでの配信をおねがいできますと幸いです。
- ・貴重な資料をありがとうございました。
- ・石垣尚一先生は確か、阪大歯学部の一補の先生の為補綴の立場から、三叉神経痛、自律神経性疼痛の考察が得られると期待していたのですが。ちなみに私は、二外の出身の為
- ・歯科医師の、痛みに対する知識向上のため、今回のセミナー内容を期間限定でも配信していただけると大変ありがたい。職場の他の歯科医師にも聴くよう進めることができる。
- ・毎年続けて、今回の様に前年から演者を少し変えただけで新しい話が出る。
- ・いつも素晴らしい企画を提供していただき感謝しています。出来るだけ参加しようと思っています。